

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ② 我が国の言語文化に関する事項 | 課題が残る結果であった |
| ③ A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ B書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ⑤ C読むこと | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | やや課題が残る結果であった |

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

もっとも正答率の高かった設問

【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する問題

もっとも正答率の低かった設問

【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く問題

分析

- ・言語文化に関する事項の正答率が低かったことから、学習したこと、実際に文字を書くことが結びついていないと考えられる。
- ・条件に合わせて文章を書く、自分の思いを表現するなど、書くことに課題がある。自分の意見を言語化する取組みが必要である。
- ・読むことの無解答率が高かったことから、設問の意味がわからない、正しく読めないなど、問題を読み取る力に課題があると考えられる。
- ・選択式の解答に関しては、全国平均と比べると無解答率は低い。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|-----------|---------------|
| ① A数と計算 | やや課題が残る結果であった |
| ② B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③ C変化と関係 | やや課題が残る結果であった |
| ④ Dデータの活用 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|----------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③ 記述式 | やや課題が残る結果であった |
| ④ (無解答率) | 概ね良好な結果であった |

(その他)

もっとも正答率の高かった設問

1050×4を計算する問題

もっとも正答率の低かった設問

果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ問題

分析

- ・図形領域で、実際に見えるなどイメージしやすい問題はおおむね良好である。
- ・変化と関係領域の割合で、見えにくい抽象的な問題を解くことに課題がある。
- ・最小公倍数など、生活の中であまり使わない求め方が必要な問いに関して課題がある。
- ・データの活用領域の正答率が低いことから、問題文や資料の読みとりを苦手としている児童が多いことと関係があると感じる。
- ・記述式の正答率が低いことから、理由の記述や考察、自分の考え・意見を言語化することに苦手意識があると考えられる。

○●理科●○

(領域ごと)

- | | |
|---------|---------------|
| ① エネルギー | 課題が残る結果であった |
| ② 粒子 | 課題が残る結果であった |
| ③ 生命 | やや課題が残る結果であった |
| ④ 地球 | やや課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|---------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ② 短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③ 記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率の高かった設問

冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題

もっとも正答率の低かった設問

問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題

分析

- ・問題を読み取り、求められていることを答えることに課題が見られた。
- ・日々の生活の中で体験したことを基に、実験結果と照らし合わせて考察する問題は、比較的
正答率が高い。
- ・メスシリンダーの使い方など、忘れてしまっていることが多い。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

全体的な平均正答率は、上向きの傾向である。算数は昨年度より下がっているが、国語の正答率は向上傾向にある。これまでの取組みが定着している成果であると考えられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度は、国語においては、昨年度より学力高位層の割合が増え、学力低位層が減っているが、算数では、学力高位層が減り、学力低位層が増えている。全体的には、学力高位層は増加傾向であるが、学力低位層、EP層も増加している。個に応じた学びの充実が必要である。

○●取組み●○

【学びの文化をつくるための授業づくりを行う】

- ・自分の考えを言語化・アウトプットする場をつくり、他者の考えを理解し、考察していく場を設定する
- ・自分の思いを友だちに伝えたり、友だちの思いを受け止めたりする力を育成する場面をつくる
- ・ICT機器の積極的な活用
- ・主体的な学びとなる課題の設定と習熟時間の確保を行う
- ・問題解決の過程を大切に学習の展開をすすめる
- ・図書館を活用した取組みをすすめる

【できたと感じるために、家庭学習をすすめる】

- ・自学自習力の育成のため、自主勉ノートに取り組む
- ・習っている単元だけでなく、様々な単元の復讐を取り入れる
- ・授業時間以外の少人数の学習の取組みの継続
- ・現在取り組んでいる算数の宿題プリントの継続
- ・保護者への啓発活動を続ける

【個に応じた学びの充実をめざす】

- ・個に応じた学習につとめる
- ・ユニバーサルデザイン授業研修
- ・授業における合理的配慮の推進

(その他)

- ・自分自身や他者との関係性を考え、コミュニケーションを通して自己の変容につなげる道徳の実践
- ・外国語の時間のコミュニケーションを通じた、友だちと自分を相互理解できる資質・能力
- ・読書週間や、図書室の整備を通じた読書に親しむ心の育成
- ・登校しづらい児童への別室学習
- ・学習と集団づくりの一体化
- ・ひらがな聴写テストの分析
- ・子ども主体の授業をめざし、校内のスタンダードを見直し、徹底していく。
- ・勉強についてのアンケートの実施・分析を継続し、よりよい授業づくりを行う